MAP

所在地	香川県高松市鶴市町1360番地	開館時間	10:00～17:00
休館日	12/29～1/3	入館料	無料

アクセス

【車の場合】JR高松駅から約12分
高松自動車道 高松西ICから約20分
高松自動車道 高松檀紙ICから約15分
【電車の場合】JR予讃線 香西駅から御殿橋経由で徒歩約30分
【バスの場合】ことでんバス下笠居線 郷東橋バス停から徒歩約20分

P6 クイズの答え
①:喞筒場地階の両端のポンプ
②:喞筒場北側の鉄管
③:喞筒場南側のレンガ通路

お願い

※団体での見学、または見学以外の目的で利用される場合は、事前にお申し込みいただく必要があります。
※その他、見学や利用に当たっての注意事項や禁止事項などについては、香川県広域水道企業団のウェブサイトでご確認ください。 旧御殿水源地 検索

お申し込み・お問い合わせ先

香川県広域水道企業団　高松ブロック統括センター
Kagawa Water Supply Authority　Takamatsu Regional Supervisory Office
〒760-8514 香川県高松市番町一丁目8番15号 高松市防災合同庁舎
TEL:087-839-2711　FAX:087-839-2710
E-mail:takamatsu_somu@union.suido-kagawa.lg.jp
〈営業時間〉月曜～金曜（祝日および年末年始（12/29～1/3）は休業）の8:30～17:15

よりよい水環境を守るため、このパンフレットは、環境にやさしい植物油インキと、FSC®（森林管理協議会）が「適切に管理されている」と認めた森林の木材から作った紙を使用し、水なし印刷で印刷しています。

VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004514
Waterless Printing Naturally

2020.3

「国登録有形文化財」

旧御殿水源地

撮影:上野時生

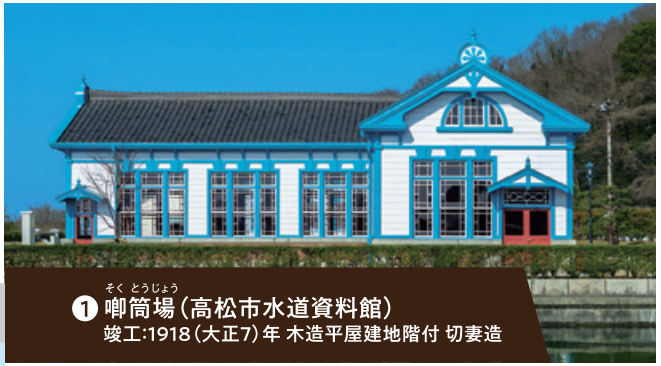
旧御殿水源地の紹介

旧御殿水源地とは、高松市の近代水道創設のために建設された浄水場のことで、1921（大正10）年9月1日に、日本で40番目の近代水道として給水を開始しました。

敷地の内外には、1915（大正4）年から1918（大正7）年にかけて建設された6つの建造物が、ほぼ創建当時の姿のまま現存しており、その歴史的・文化財的価値から、1997（平成9）年には喞筒場と事務所の2件が、また、2016（平成28）年には倉庫、集水埋渠東方人孔、北門門柱、擁壁の4件が、いずれも国の「登録有形文化財」に登録されています。

現在の全体配置図

国登録有形文化財の紹介



1 喞筒場（高松市水道資料館）
竣工:1918（大正7）年 木造平屋建地階付 切妻造

1986（昭和61）年まで、喞筒（＝ポンプ）場として使用していました。建物はT字型で、西棟にはレンガ壁で囲まれた深さ約4mの地下室があります。キングポストトラスの洋小屋組で造られており、レンガ積みの基礎やアクロテリオンと装飾的な破風、縦長の上げ下げ窓など、洋館風の外観が特徴的です。

1986（昭和61）年まで、事務室や宿直室として使用していました。建物はL字型で、南東の出隅部に出入口があります。伝統的な和小屋組で造られていますが、レンガ積みの基礎や縦長の上げ下げ窓のほか、玄関ポーチに設けられた装飾的な半円形の破風など、喞筒場と一体的な洋館風の外観が特徴的です。

2 事務所 竣工:1917（大正6）年 木造平屋建 寄棟造

3 倉庫 竣工:1917（大正6）年

1986（昭和61）年まで、倉庫として使用していました。外装は喞筒場や事務所と同じ横板張りですが、腰壁は設けられておらず、全体として装飾的な要素が少ない簡素な造りになっています。

4 集水埋渠東方人孔
竣工:1915（大正4）年

香東川の伏流水を取水する施設の一部で、川を横断するように設置した集水渠の点検用人孔（マンホール）として建設されました。レンガを積み上げた構造で、約9mもの深さがあります。

5 北門門柱 竣工:1918（大正7）年頃

現在の駐車場の位置にあった職員官舎へ通じる通用口の門柱として建設されました。3つの花崗岩を積み上げた構造で、現在は門扉が設置されていますが、創建当時は門柱だけだったと考えられています。

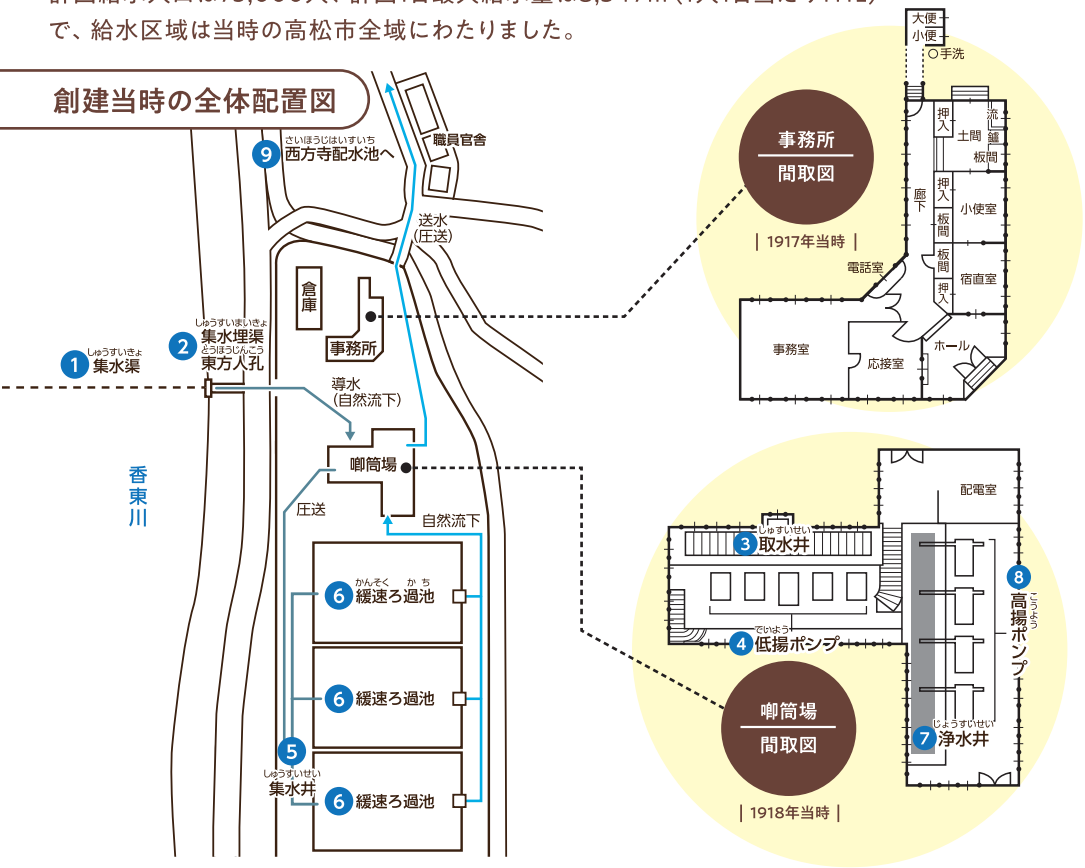
6 擁壁 竣工:1918（大正7）年頃

敷地の造成に伴って建設されたもので、敷地の北面と東面には創建当時のものが現存しています。花崗岩の割石を空積みした間知石積みで、隅角部を設けないように隣接する水路に沿って湾曲させています。

創建当時の旧御殿水源地

創建当時の旧御殿水源地は、香東川の伏流水を取水し、3つの緩速ろ過池で浄水していました。計画給水人口は75,000人、計画1日最大給水量は8,347㎥（1人1日当たり111L）で、給水区域は当時の高松市全域にわたりました。

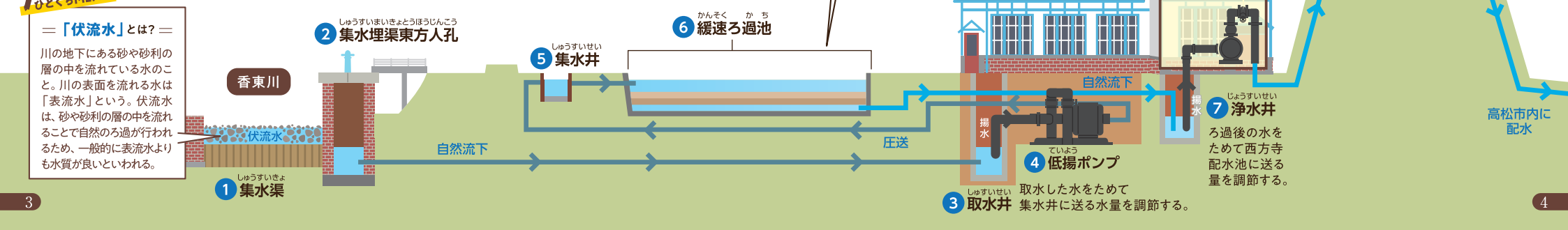
創建当時の全体配置図



創建当時の浄水処理図解

※1923（大正12）年3月1日時点

集水渠で取水した伏流水は、集水埋渠東方人孔を通って喞筒場の取水井に入り、低揚ポンプで集水井に圧送した後、緩速ろ過池に入ります。
緩速ろ過池でろ過した水は、喞筒場の浄水井に入り、高揚ポンプで旧御殿水源地の北東およそ1.2kmの位置にある西方寺配水池に圧送した後、高松市内に配水していました。



ひとくちMEMO

「伏流水」とは？

川の地下にある砂や砂利の層の中を流れている水のこと。川の表面を流れる水は「表流水」という。伏流水は、砂や砂利の層の中を流れることで自然のろ過が行われるため、一般的に表流水よりも水質が良いといわれる。

ひとくちMEMO

「緩速ろ過」とは？

ろ過砂の表面に繁殖する微生物に汚れや濁りを分解させることで、水をきれいにする方法のこと。現在では、薬品を使って水をきれいにする「急速ろ過」が浄水処理の主流になっている。

8 高揚ポンプ

浄水井の水を西方寺配水池に圧送するためのポンプ。

9 西方寺配水池

1918（大正7）年竣工。
高揚ポンプで圧送されてきた水をためて市内に配水する。

▲創建当時の旧御殿水源地全景

ひとくちMEMO

今も現役の施設

近代水道創設時に建設された施設のうち、1915（大正4）年に竣工した「集水埋渠東方人孔」と、1918（大正7）年に竣工した「西方寺配水池」は、今でも現役の水道施設として稼働している。

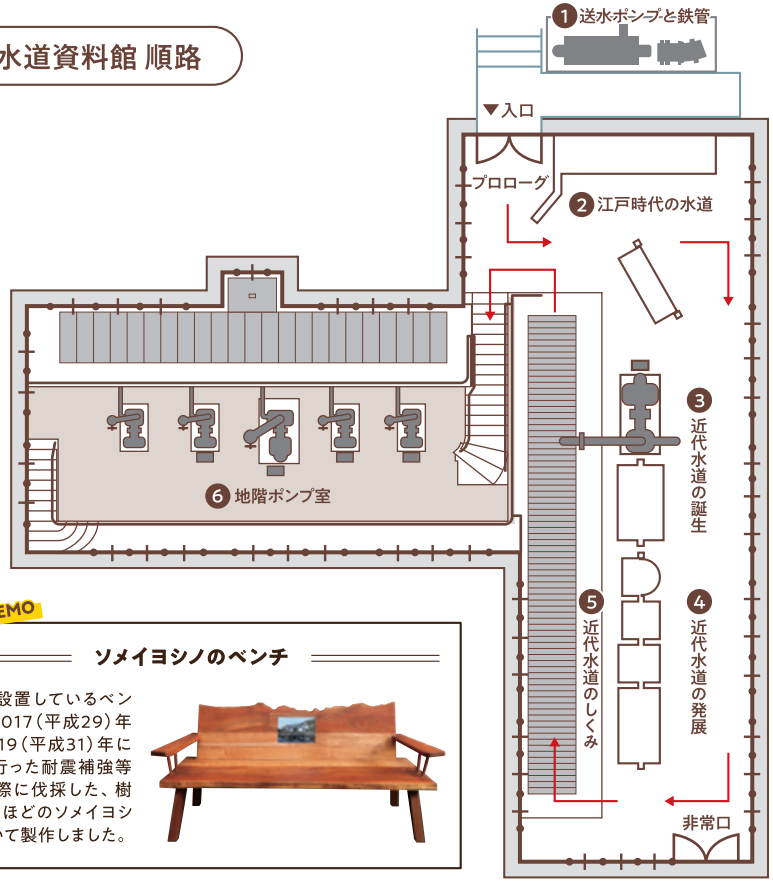
▲緩速ろ過池築造工事

▲西方寺配水池築造工事

高松市水道資料館の紹介

1918（大正7）年8月30日に竣工した旧御殿水源地喞筒場は、現在「高松市水道資料館」として活用しています。館内では、近代水道創設時に使われていたポンプや各種資料の展示により、江戸時代から始まる高松市の水道の歴史を紹介しています。

高松市水道資料館 順路



ひとくちMEMO

ソメイヨシノのベンチ

館内に設置しているベンチは、2017（平成29）年から2019（平成31）年にかけて行った耐震補強等工事の際に伐採した、樹齢50年ほどのソメイヨシノを用いて製作しました。

QUESTION

これらのマークはどこにあるでしょう？
敷地の中に潜んでいます。

※答えは裏表紙にあります。

①MYと魚マーク

②高松市の市章

③ひし形のマーク

展示物の紹介

1 旧楠上水源地の送水ポンプと近代水道創設当時の鉄管

高松市楠上町にあった旧楠上水源地（1974（昭和49）年休止、その後廃止）で使われていた送水ポンプと、旧御殿水源地で使われていた近代水道創設当時の鉄管を展示しています。

2 江戸時代の水道

1947（昭和22）年頃まで使われていた江戸時代の水道の歴史やしくみを、江戸時代初期に描かれた高松城下図屏風や発掘された木樋・土管などとともに紹介しています。

3 近代水道の誕生

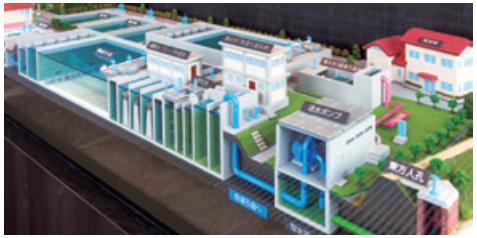
1890（明治23）年に全国で40番目の市として誕生した高松市が、近代水道を創設するまでの経緯などを紹介しています。水道工事に使われた工具や当時の印刷物なども展示しています。

4 近代水道の発展

給水人口の増加や生活様式の変化などによる水需要の増加を満たすため、幾度も行われた水道拡張事業の歴史などについて、当時の生活用品や器具などとともに紹介しています。

5 近代水道のしくみ

現在の浄水場のしくみや水道水の水質管理方法などについて、模型やパネルで紹介しています。また、南海トラフ地震に備えた対策についても、最新の耐震管の展示とともに紹介しています。



6 地階ポンプ室

1986（昭和61）年まで実際に使われていた、低揚ポンプ（取水井の水を集水井に圧送するポンプ）を展示しています。レンガ壁に囲まれた独特の雰囲気を持つ地階ポンプ室は、写真撮影のスポットとしても人気です。